1 はじめに

第 38 回長野市中学生友好訪中団報告

団長 長野市立篠ノ井西中学校長 宮崎 桂子

令和5年10月31日(火)~11月6日(月)、第38回長野市中学生友好訪中団が友好都市である中国石家庄市及び北京を訪れました。参加した10名の中学生にとっては、石家庄市の中学生との交流をはじめ、文化遺産や観光施設を見学し、訪中団の大きな目的である、「生徒同士が言葉の壁を越えて心と心で通じ合い、友好や親善を進めるとともに、現代中国の人々の生活や社会、文化に触れ見聞を広める」という有意義な訪中となりました。私自身にとっても、古より栄え、日本が学び続けてきた中国を訪問すること、自分の目で今の中国を見て感じることができる貴重な機会となりました。

【10月31日(火)】

長野駅善光寺口広場に集まった訪中団 12名 (団員 10名、引率 2名) は、10時 40分、出発式を行い、 それぞれの思いを胸に長野を出発しました。出発式では、前島卓学校教育課長様はじめ長野市教育委員 会の皆様、横澤秀信中学校長会長先生、各校の校長先生・教頭先生、そして保護者の皆様に見守られる 中、温かな激励の言葉をいただき、新幹線に乗り込みました。

14時頃に羽田空港国際線ターミナルに着き搭乗手続きを始めると、ここから先、北京空港を出るまでは私たち12名だけとなり、緊張感とともにいよいよ中国へ行くのだと訪中の実感が湧いてきました。搭乗した日本航空025便は、ほぼ予定通り20時(現地時刻)に北京空港に到着し、入国書類を書くことや指紋認証、健康チェック(11月より廃止)等、てこずるところもありましたが、無事入国できました。

21 時 30 分頃、空港内を列車で移動しなければ荷物引き渡し場所に着かないほど広い北京空港の出口で、石家



庄市外事弁公室の安さんと張さんが温かく出迎えてくれ、ほっと一安心しました。バスに乗り込み、無事ホテルに到着しました。

【11月1日(水)】

朝、ホテルをチェックアウトし、8時にバスに乗り、高速鉄道の北京の駅に向かいました。バスで移動中、昨日は夜だったので気づきませんでしたが、北京市内を見渡せば、至る所に高層ビルと車、片側4~5車線、さらにバイクと自転車専用の側道もあり、路肩には車やバイク、自転車が入り混じって、大渋滞といった感じでした。その後、高鉄の駅では、荷物検査、特に外国人は、パスポートチェックがあり、厳重な体制でした。

高鉄に乗り込み、車窓から広がる風景は、どこまでも何もない平地が続いたかと思うと、突如として高層ビルが建ち並ぶ場所があったりしました。中国はとてつもなく広いと実感しました。そして、北京から石家庄市まで約300kmある距離を、1時間で到着してしまう高鉄の速さに、さらにびっくりでした。

石家庄の駅に着くと、崔さんや王さんが、温かく迎えてくれました。

12 時頃ホテルにチャックインし、そのときもパスポートの確認がありました。ホテルでの昼食後、日本語が堪能な馬さんが合流し、河北省博物院へ見学に行きました。「博物院」とは、博物館よりグレードが高い場所だそうです。そこには、戦国時代の中国で、現在の河北省中南部を中心とする一帯を領土とした中山国の宝物が数多く展示されており、中には門外不出の品もありました。中国の壮大な歴史を感じることができました。

その後、人民広場の長野市から贈られた「友好の鐘」を見学し、石家庄市とのつながりを強く感じました。

夕方は、副市長への表敬訪問に臨みました。副市長は公務のため出席ができないとのことで、張石家 荘市政府副秘書長が代理としていらっしゃいました。緊張の中で始まった会談でしたが、私たち団員を 温かく歓迎していただき、ねぎらいの言葉をいただくとともに、石家庄市の様子を説明していただいたり、長野市との友好親善、交流する若者に寄せる期待等をお話しいただいたりし、和やかな時間となりました。

【11月2日(木)】

この日は、中学校との交流が行われました。

午前中は、石家庄市外国語学校への訪問でした。

到着した私たちが圧倒されたのは、陸上競技場と間違えるほどの広いグラウンドで、中学3年生にあたる1600人余りの生徒が集合し、ステージには100名ほどの先生方、そして観客席には保護者の方がいる中で、これから迎える高校受験に向けての決起集会の様子でした。その光景を目の当たりにし、しばらく呆然としてしまいました。

外国語学校は、幼稚園から中学校までが私立、高校が公立で、とても大規模な学校でした。石家庄市内では学力の高い学校で、外国語学校に通うために親子で石家荘市に住む家庭もあるそうです。 6 か国の言語のコースがあり、外国人教師が指導し、日本をはじめ、アメリカ、カナダ、ロシア他 22 か国と友



好交流をしているとのことでした。日本人で日本語会話の授業を受け持っている先生ともお話することができました。1日の授業は、40分×11コマ、その後、教室での自習が9時30分まで(高校生は10時まで)やり、帰宅する毎日だと聞いて、とても驚きました。私たちは、日本語教室の授業に参加し、中国の生徒が日本語で石家荘市や中国の観光地やグルメをプレゼンしており、その後のグループ活動でも日本語で会話をする姿にさらに驚きました。高校生の中には、大学院は日本に行きたいと思っている生徒がいるとお聞きしました。長野市訪中団は、「未来へ」と「マリーゴールド」の歌の発表をしました。その後、生徒さんの案内で、校内を見学しまし

た。科学・美術・AIなど専門的な多くの特別教室を有し、温水プール、氷上ではないアイスホッケー・スケートの練習ができる場所もあり、施設が充実していました。

午後は、石家庄市第 41 中学校との交流が行われました。第 41 中学校の校長先生に加え、その姉妹校に当たる第 10 中学校の校長先生も私たちを迎えてくれました。まず歓迎会の中で、長野市訪中団は、「未来へ」と「正解」の 2 曲を発表しました。第 41 中学校の生徒の中に今年の夏まで日本で住んでいた生徒もいて、「未来へ」を口ずさみながら聞いてくれました。

その後、第41中学校の生徒とグループに分かれてテーマに沿った箱庭づくりの活動を行いました。そして、校内を案内してもらい、体育の授業でサッカーと太極拳もいっしょに楽しみました。さらには、お茶を飲む時間があり、中国のいろいろなお茶を体験することができました。また、香り袋の制作や書道の体験など、様々な活動を準備していてくれ、訪中団の生徒たちは、自分のやりたい活動を自由に選

んで参加しました。言葉は直接的には通じなくても、互いに楽しく交流しながら学ぶことができました。 夕方の家庭訪問は、二人一組で一家庭へ訪問しましたが、夕食のギョーザを作るなど、中国の家庭に 入り、夕食をいただきながら深い関わりができたようでよかったと思います。

【11月3日(金)】



石家庄市の植物園と動物園を訪れました。植物園では、広い園内をカートに乗って移動しながら、多種多様な植物を見学しました。長野市との友好植物園もあり、多くの桜の木を目にすることができました。午後は、動物園へ行き、長野市から贈られたチンパンジーの孫にあたるチンパンジーに会ったり、パンダの前では、しばしらく釘付けになったりしました。生徒たちは、お土産にパンダのぬいぐるみやキーホルダーを沢山購入していました。

夕方には、石家庄市外事弁公室の主催の送別会が行われました。 もう送別会になってしまうのかと、石家荘市でのあっという間の

時間を振り返っていました。訪中の間、ずっとお世話をしていただいたり、温かく歓迎していただいたりしたことへの感謝の言葉を述べながら、中華料理をおいしくいただきました。

【11月4日(土)】

石家庄市から再び高鉄で北京に戻り、翌日の天候が雨という予報のため、予定を変更して万里の長城を見学しました。 チケット購入にパスポートも必要という警備の中、世界遺産の万里の長城に入りました。観光客でかなり混雑していました。高台までやっとの思いで登り、そこから眺めた長城は、壮大で、偉大であることを実感しました。"百聞は一見にしかず"とはまさにこのことだと思いました。



【11月5日(日)】



あいにくの雨の中でしたが、北京内の観光が中心でしたので、とても楽しみました。

午前中は、頤和園を見学しました。

乾隆帝は母の皇太后の還暦を祝い、西湖の西に高水湖及び養水湖を掘削、拡張し、湖の掘削の際の土砂を利用して山を拡大したそうです。人工の広い湖を造り、その土砂で山を造るという、これも中国のスケールの大きさを感じる場所でした。

さらに午後は、天壇公園を見学しました。皇帝が天を祭る ための儀式を執り行う場所で、毎年冬至に豊作を祈る儀式を

行っているそうです。形は円形で、欄干や階段などが陰陽思想でいう最大の陽数である9やその倍数で造られていて、各壇の直径を合計すると45丈なのだそうです。ここでも中国の大きさを感じることができました。

見学後、夕食まで少し時間があったため、王府井商店街でお土産を買いました。生徒たちは、それぞれが渡す相手を思い描きながら、また自分のための品を買っていました。

【11月6日(月)】

朝5時から朝食をとり北京空港に向かいました。お世話になった安さん、張さん、王さんにお礼とお別れの挨拶をして、羽田行き日本航空 020 便に乗り込みました。天候もよく順調に飛行を続け、無事羽田に到着。予定通り 17 時 41 分長野駅に着きました。勝野学次長様はじめ酒井好和学校支援官様、教育委員会の先生方、佐藤裕美校長先生や関係の先生方、そして保護者の皆様、お忙しい中、お出迎えありがとうございました。

最後になりましたが、長野市、長野市教育委員会から、長野市中学生友好訪中団の一員として貴重な研修の機会を与えていただいたことに心から感謝申し上げます。また、副団長として同行していただいた長野市教育委員会学校教育課金沢敦課長補佐には、準備から出発、訪中の間の様々な対応、帰国後の報告まで、多くのサポートをしていただきました。ありがとうございました。そして何より、団員 10 名の生徒の皆さんが、体調を崩すことなく、元気に目的を達成しようとがんばったこと、長野駅で整列した一人一人の顔が、出発の時よりたくましく、自信に満ちたものであったことが、何よりうれしく、生徒の皆さんに感謝したいと思います。本当にありがとうございました。



2 中国訪問で学んだこと

訪中を通して学んだこと

長野市立櫻ケ岡中学校 小泉 杏菜

今回、第38回長野市中学生友好訪中団の一員として、石家荘市に行ってきました。

学習会を通して、団員のみんなと交流を深めていくうちに楽しみが膨らんでいき、10月31日ついに訪中の日を迎えました。

訪中前は不安な気持ちもありましたが、あっという間の7日間でした。

この訪問を通して私は様々なことを学ぶことが出来ました。その中で印象に残ったことを紹介したいと 思います。

1つ目は、スケールの大きさです。訪問させてもらった外国語学校の生徒は6,500人と多く、日本とは規模が違い圧倒されました。外国語学校では英語だけでなく、日本語、フランス語、ロシア語などを学ぶ生徒もいて、とても刺激を受けました。授業では、伝統楽器の演奏、切り絵を学んでいたのがとても印象的でした。

2つ目は中国の食文化です。

学校訪問をさせてもらった第41中学校の生徒さんの自宅に訪問させてもらいました。そこで、いっしょに餃子を作りました。中国では、餃子といえば水餃子が一般的で、皮から手作りするそうです。他にも家庭料理をたくさん用意していただき、とても美味しかったです。中国の一般家庭の生活様式や暮らしぶりを知ることができ、より、身近に感じることができました。

3つ目は、万里の長城の見学です。

世界遺産だということは知っていましたが、ここまで長い建造物だとは全く知りませんでした。最近の研究で全長2万キロを超える城壁があったことがわかったそうです。私達が訪れた八達嶺長城は、明の時代に築かれたもので、長城の中でも代表的な場所です。そのスケールの大きさに中国の歴史を感じることができました。

今回の訪中で石家荘の方と交流は、貴重な経験となりました。これからの人生に役に立つものになった と思います。

中国訪問の機会を与えてくださり、感謝しています。ありがとうございました。



今回の中国への渡航は、私にとって大きな成長につながる出来事だったと思います。渡航の前日は急に 不安になったりもしましたが、出国するともうそのような気持ちはなくなっていました。

中国に着くと、その瞬間からスケールの大きさを実感しました。建物の大きさも道路の幅の広さも日本とはまるで違いました。中国大陸が広大だからこそ生まれるスケールだなと思いました。

河北省博物院で紀元前のものとは思えないような便利な道具を見たり、万里の長城でいくつもの山を越えてもまだ続く道を歩いたときは、中国の長い歴史と先人の知恵の素晴らしさが分かりました。

また、人の温かさを感じる場面がいくつもありました。まず、石家庄市に到着してすぐの歓迎会では、外事弁公室の方や副市長が笑顔で「ようこそ」と言って下さり、豪華な中華料理で私たちを迎え入れてくれました。外国語学校を訪ねたときは、生徒の方々と打ち解けることができ、色々な会話が弾みました。日本語が堪能だったので、あちらから話しかけてくれたこともあり会話もずっと続きました。住んでいる国が違っても共感しあえることが沢山ありました。そして、私が一番楽しみにしていた家庭訪問では、テーブルいっぱいのお菓子や、いろいろな種類の家庭中華料理で本当に心のこもった歓迎をしてくださいました。その家のお母さんはとても優しくて、私の小皿に料理が無くなると、その都度小皿に料理を取り分けてくれました。どこの国のお母さんも優しくて温かいのだなと思いました。絶対に伝わらないだろうと思っていた私の英語や中国語が伝わって、コミュニケーションがとれたときはとても嬉しかったです。何とか気持ちを伝えながらその子と友達になれたので、今後も交流を続けていきたいと思います。

その他にも頤和園や天壇公園に行って、中国の文化に直接触れたり、街並みや聞こえてくる音、どことなく漂うスパイスの香りなど、五感を通して中国の雰囲気を味わうことが出来ました。

私は今回、広い中国に行って視野を広げることができたと思います。スケールや歴史の長さ、言語などは日本と全く異なりますが、温かく優しい心は日本人と全く同じでした。「どんな人とでも通じ合える」ということが実感できました。今回得た新たな視野で、今後は物事を多方面から見てもっと世界を広げていこうと思います。

この度は、このような貴重な機会を与えてくださり、本当にありがとうございました。



私が訪中前に抱えていた不安はいつの間にか消え、帰ってきたころには、最高の思い出に変わっていました。学習会のときに共に中国について学びつつも打ち解けきれてはいなかった団員たちとは、信じられないくらい仲良くなることができました。それは、初めての刺激的な出来事をたくさん共有できたからだと思います。私が今回の訪中で見たこと、したこと、学んだことはすべてが大切な経験となりました。その中でも、特に三つのことが強く印象に残っています。

一つ目は、中国の学校生活です。外国語学校では、世界中の様々な言語を学習していました。交流を した日本語を専攻している生徒たちは、私たちに地域のおすすめの場所を発表してくれたほか、好きな ことなどについての話もしました。同じ中学生なのに日本語がペラペラで驚きました。学校の設備がと ても整っていて、校舎はものすごく大きかったです。また、家庭訪問先の第四一中学校の生徒は、帰宅 後も多くの宿題をすると話していました。見せてくれた英語のワークはレベルが高く、私ももっと頑張 らなければと思いました。

二つ目は、中国の歴史と現在についてです。万里の長城や頤和園などを見学して、中国の歴史の壮大さを感じました。それと同時に、大きなビルが並ぶ発展した都市のことやほとんどの買い物がキャッシュレス化していることも知りました。進んだ技術とスケールの大きさを肌で感じることかできました。

三つ目は、自分の目で確かめることの大切さです。訪中前に原発の処理水放出に対する中国政府や国 民の批判が話題だったこともあり、歓迎してもらえるのかと不安な気持ちでいました。しかし、実際に 行ってみると友好的な方ばかりで、皆が否定的なのではないかという勝手なイメージを抱いていたこと が恥ずかしくなりました。今まで、生活の中でイメージを作ってしまったり、本当かわからないニュー スを見かけたりすることがありました。だからこそ、自分の目で物事を確かめることを大切にしていこ うと思います。

訪中を通して、いろいろな体験・学習をし、多くの方々と交流ができました。世界はこんなにも広いのだと知ることができました。この経験を多くの人に伝えたり、将来につなげたりしたいです。最後に、 貴重な機会をくださった皆様、最高の思い出をくれた訪中団のみんな、本当にありがとうございました。





今回の「中学生友好訪中団」は私にとって人生初の海外渡航のため、初めは楽しみよりも不安や緊張が大きかったです。しかし、5回の事前学習会で訪中団員との交流を深めたり、中国について学んだりする時間を設けていただいたおかげで、段々と楽しみに変わっていきました。

出国時は「一週間も中国にいることができるかな?」と心配もありましたが、実際に行ってみると初めての体験や学びが非常に多く、とても充実した毎日の連続で、時間はあっという間に過ぎてしまい、1週間では足りないと思うほどでした。

今回の訪中で考えさせられたことが2つあります。

1つ目は、実際に現地に行き、見て、自ら体験することの大切さです。私は今まで教科書やニュースを 通して得た情報から中国に対してあまりいいイメージを持っていませんでした。また、中国の方たちは 日本に対して悪い印象があるのではないかと思っていました。

しかし、訪中したことにより、私は勝手なイメージを持っていたのだと気づかされました。訪問した中国の都市は私が思っていたよりも綺麗で、ニュースやインターネットで見るような日本人に対して敵意を持った方はおらず、実際に交流した中国の方たちは私たちにとても優しく接してくれました。メディアの情報を鵜のみにせず、自らの経験も踏まえて正しい判断ができるようになりたいと思いました。

2つ目は、中国の同年代は学習意欲が高いということです。事前学習の際に、中国の学生は学習意欲が高いと聞いており、興味がありました。実際に中学校の日本語教科の授業に参加した時に、同年代の学生が上手な日本語で石家庄市の有名なものについて発表していました。質問や受け答えも日本語で対応してくれて、日本の学生よりも真摯に勉強と向き合っていました。流暢な受け答えのとおり、学習の成果もあらわれていて、このままでは世界と日本の差がどんどん広がると感じました。まずは私自身、がんばらないといけないなと良い刺激をもらいました。



最後に、この訪中を通して様々なことを経験し、学ぶことができました。この経験を今後の私の人生 に活かしていきたいです。

今回、このような機会を与えてくださった皆様、先生方、支えてくれた家族、訪中団の仲間たち、本当にありがとうございました!!

私は今回の訪中を通して様々なことを体験し、学ぶことができました。その中でも2つ印象に残った ことがあります。

1つ目は学校訪問、家庭訪問です。学校の大きさ、生徒数などが日本とは全く違い、衝撃を受けました。外国語学校では日本語のクラスの人たちが日本語や英語で話しかけてくれました。数ある言語の中から日本語を選んでくれた嬉しさと、自分は英語もろくに話せないと力不足を実感しました。その後の家庭訪問では、中国語で自己紹介した名前を覚えてもらえて、自分の中国語が伝わってとても嬉しかったです。夕食に水餃子を作ったり、英語で日本のことを聞かれたり、あいうえお…と一緒に発音したりなど、とても温かい家庭でした。

2つ目は万里の長城、頤和園、天壇公園と3つの世界遺産に行ったことです。万里の長城は城壁が遠くの山までずっと続いていて、2,000年前以上のものが残っていることが凄く、改めて中国の歴史の長さを感じました。頤和園、天壇公園は日本にはない建造物があり中国と日本の違いを見つけることができました。

この訪中を通して、多くの体験をし、中国の食や文化、歴史を学ぶことができました。今回の体験を 今後の人生に生かしていきます。訪中に関わってくださった全ての皆様、本当にありがとうございまし た。





中国に行く前、僕はずっと海外に行きたかったので、このような機会をいただけてとても楽しみでした。ですが、正直あまり良いイメージがなかったことや、何かとトラブルが起きないかと、不安だらけでしたが、1週間訪中団のメンバーや団長、副団長、そして現地で温かく迎えて下さり、サポートしてくれた方たちと過ごし、とても良い経験ができ、一生の思い出になりました。

特に(自分以外の) 訪中団の9名のメンバーとは学習会の時とは見違えるほどに仲良くなりました。男子は自分ともう一人だけでしたが男女の壁もほとんどなくみんなで笑いあったり、ふざけあったりしてたった1週間一緒に過ごしただけだけど、学校で一番仲のいい友達みたいな距離感でした。なので、最終日別れる時はとても名残惜しかったです。

そして、この訪中の大きな目玉である外国語学校と第41中学訪問では、やっぱりとにかく規模が大きく、教育が最先端で生徒が大勢いました。外国語学校では、学力が高いことだけでなく、芸術的な分野に力を入れていることにとても驚かされました。案内してくれた高校3年生の人がこの学校の事を詳しく教えてくれました。また、日本語のクラスの先生によると中国人はお金や(現金はほぼ使わない)連絡、個人情報などとてもスマホに頼った生活をしている、と教えてくれました。スマホをなくすこと、それはほぼ"死"を意味するそうです。第41中学では、お茶会や中にミントやラベンダーを入れて香りを楽しむものをつくるなどの体験をしました。そして、この学校の生徒の家にホームステイをし、夜ご飯を一緒に食べました。翻訳アプリで中国の家庭について聞いたり、日本の「いただきます、ごちそうさま」などを教えたりしました。この家のお父さんがとても面白く、親しみやすい人で本当にお父さんみたいなノリでとても楽しかったです。また、とても手厚くもてなしてくれてたくさんのお土産をくれました。

他にも、石家庄市の観光や世界遺産巡りをしました。石家庄市の動物園、植物園は、日本じゃ考えられないような広さで動物園はきっとこのほうが野生に近くて良いのだろうなと思いました。楽しみにしていたパンダも存分に見られました。また、石家庄のスーパーは日本との違いがあって面白かったです。例えば日本はモノを基本「量」で売りますが、このスーパーでは店員さんが「重さ」を量って値段を決めて売る仕組みでした。そして何より中国は物価が安いことをここで実感しました。

僕はこの訪中を振り返って中国へのイメージがガラリと変わりました。人は温かい、ノリは良い、言葉が通じなくても相手もこちらを理解しようとしてくれる。そして自分も今までの自分を捨てて積極的に交流できました。

改めてですが、このような機会をくれた方々、中国で僕たちに最高の経験をさせてくれた方々、そして 1 週間をともにした団長、副団長、訪中団のメンバー、最高の思い出になりました、本当にありがとうございました。

僕が訪中団のメンバーの一人に決まったとき、始めは、念願の中国に行けることへの喜びと日本とは文化が異なる国へ行くことへの不安がありました。しかし、家族や先生方の支え、団員の皆さんのおかげで、とても充実した体験になりました。さて、僕が中国に行って印象に残ったことは三つあります。

一つ目は中国の建造物についてです。今回の訪中では万里の長城を始め、頤和園や天壇公園などの歴史 的建造物、植物園や学校など現地の人の生活と結び付きがあるものを見学させていただきました。その 中で沢山の気づきがあったのですが、特に僕が驚いたのはそのスケールの大きさです。中国の建物は日 本と比べ物にならないくらい大きく広いものが多く、中国の文化に圧倒されました。

二つ目は中国の人の人柄についてです。中国にはフレンドリーな人が多く、例えば電車で隣になったときやエレベーターで一緒になったときなど、よく話しかけてきてくれました。中国語で話しかけられたため、正直何を言っているのか分かりませんでしたが、現地の人との交流は僕の目標だったので、今までの学習会で習ったちょっとした中国語や英語、ジェスチャーを使ってコミュニケーションをとりました。特に、伝えたいことを相手に理解してもらったときはとても嬉しかったです。

三つ目は中国の食文化についてです。中国では念願だった本場の中華料理をたくさん堪能することができました。中華料理というと全ての食べ物が辛いという印象がありましたが、実は地域によって料理の辛さには差があるらしく、辛くないものもありました。ただ、どんな料理も共通して味が甘く濃いめの味付けでした。食べたことのない味の食べ物もありましたがどれも美味しかったです。

中国での日々は何もかも楽しくいい思い出になり、訪中団の仲間との別れは少し寂しさがありました。

最後になりましたが今回の訪中に関わってくださったすべての皆様、本当にありがとうございました。

(写真① 植物園)



(写真② 訪問先のご家族)



私はこの訪中において「現地の人や団員の仲間とたくさんの人と積極的に関わることで楽しさを感じ、 文化を知る」という目標を掲げていましたが、実際に多くの人と関わって、たくさんのことを感じました。

特に印象深いのが家庭訪問です。お邪魔する前はいろんな不安があってとても緊張していました。でも、家族の方々が本当に温かく迎え入れてくれてとても安心したし、そこで緊張がほぐれました。私は、自分で英語は得意なほうだと思っていましたが、いざ話そうとすると言いたいことがうまく言葉にできなかったり、逆に相手が一生懸命説明してくれてもよく理解できなかったりして、すごくもどかしい場面がたくさんありました。でもお土産を渡しあったり、夕食を一緒に食べたりする中でジェスチャーや拙い英語で積極的に質問をして仲良くなることができました。それは言葉の壁があっても相手の事を知りたいという気持ちがお互いにあったからだと思います。

そして、団員の仲間たちとこんなに打ち解けられたことに自分でもびっくりしています。初めの頃はお互い緊張していてギクシャクしていましたが、学習会の回を重ねていく毎に少しずつ仲良くなり、出発してからは、あだ名で呼びあったり、毎日のようにみんなで部屋に集まったりするほど距離が縮まりました。最後の日には全員と住所を交換し、年賀状を送ることを約束して、別れるのが本当に寂しかったです。

最後に、私がこの訪中を通して一番感じたことは何事も積極的に取り組むことの大切さです。初めての体験尽くしで不安な部分もたくさんありましたが、「こんなに貴重な体験は二度とないから自分を成長させたい」という思いで、自ら総務係になったり、一番緊張するという副市長表敬の挨拶に立候補したりしました。色々なことに興味を持って、積極的に行動したことで出会えた仲間がいて、貴重な体験ができて、そんな自分の可能性を感じられたことが一番嬉しいです。自分を成長させてくれたこの大きな経験は一生の宝物になりました。このような機会をくれて支えてくださったすべての人に感謝を伝えたいです。本当にありがとうございました。





私はこの訪問を通してたくさんのことを学びました。中国へ行く前は、すごく不安でした。だけど、終わった後はたくさんの思い出ができました。その中でも印象に残ったものが三つあります。

一つ目は、建物などのスケールの大きさです。中国の動物園や植物園はとにかく大きかったです。園内を専用の車で移動するほどでした。園内には、たくさんの植物や日本ではあまり見ることのできない動物たちがいて貴重な体験をすることができました。

二つ目は、中国の生徒です。中国の生徒の学習への意欲が高くて驚きました。朝七時から中学生は夜九時、高校生は夜十時まで勉強をするそうです。授業中も積極的に自分から手をあげていました。外国語学校では高校生の方が日本語で話しかけてくれてとても話しやすかったです。

三つ目は、中国の歴史についてです。頤和園や天壇公園などにも行きましたが、一番印象が強かったのは、万里の長城でした。万里の長城へ行くと迫力がすごかったです。昔に作られたものとは思いないほど大きく長かったです。



今回の訪中を通してたくさんの経験をすることができました。訪中団のみんなと過ごすことができ、すごく楽しい一週間で、一生忘れられない思い出になりました。今回、このような機会を与えてくださった皆様、本当にありがとうございました。

第38回長野市中学生友好訪中団員と関係の皆様へ

学校教育課 金沢 敦

私は、令和元年度から姉妹友好都市交流事業を担当し、計 4 回の中学生の派遣に携わってきました。 中でも、新型コロナウイルスの流行明けとあって、今回の友好訪中団は、これまでになく困難な派遣と なりました。そのような状況の中、訪中を決断された宮崎団長、生徒のみなさん、それと保護者の皆様 には、敬意を表します。

さて、これまで、計 4 回の中学生の派遣に携わって、生徒の特長に、その時々の傾向が見られることに気づきました。今回の友好訪中団員の生徒のみなさんには、打ち解けるまでに多くの時間を要すると感じました。特異な環境下で、学校生活を送って来たことも影響していると推測できます。

そのため、今回の派遣が終わった時に、これまでの派遣と同様にかけがえのない仲間としての関係を 築けるのか、お互いに協力し合えるのか、不安な気持ちがありました。

ただ、そのような不安が、杞憂であることに気づくまでに時間を要しませんでした。5回目の学習会では、生徒だけで学習方法を考え、合唱の練習に励む姿や息抜きする場面では、ムードメーカーの男子生徒を中心に、大笑いしながら皆で会話を楽しんでいる姿に今回の訪中の成功を確信しました。石家庄市2日目の外国語学校の訪問の際には、石家庄市の生徒と楽しそうに全員で校内を見学する姿に、言葉や文化の違いが何の障壁にもならないことを認識させられ、頼もしく感じました。

石家庄市の河北省博物院では、学芸員の話をメモしながら真剣に聞き、多くの写真を収める姿に、多くのことを吸収し、自らの知識や経験にしていこうというとても積極的な姿勢を感じました。

高速鉄道の移動の際には、トラブルがあって、それぞれ別々の車両や席に座ることになりましたが、数人の生徒が、中国でおやつとして親しまれているヒマワリの種を、皆が直ぐに食べられるようにと皮むきに精を出す姿に感動を覚えました。そのヒマワリの種は、万里の長城で、飲み物や食べ物がない状況で長く歩いた後に、皆でエネルギー補給のために食しました。

北京市や万里の長城での自由時間には、どこで何をしたいか、それぞれに主張ができ、仮にそれが難しいと伝えると、直ぐに次の目的に切り替えることができる柔軟性があり、また、今回の作文でも示されていますが、出された課題に対しては、目的を見極め、効率的に進める力が備わっているように感じました。挙げ出せばキリがないぐらい素晴らしい能力が備わっている生徒たちが、今回の経験でさらに成長して行くことを願ってやみません。この先、コロナ禍で学生生活を過ごした世代として括られることもあるかもしれませんが、そのような特異な環境だからこそ、それぞれに素晴らしい能力を身に着けていることを実感することができ、皆さんの将来に期待しかありません。そして、出来れば将来、長野市の国際交流の発展に力を貸してくれることを願っています。

最後に、今回の派遣では、これまで必要のなかった健康申告やビザの取得等渡航までに様々な手続きを要しました。保護者の皆様や旅行代理店の皆様に、根気強く支援いただきました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

また、私にこのような素晴らしい出会いと貴重な経験の機会を与えてくださった関係の皆様に心からお礼申し上げます。